堂々と輝いて

GAT-X105/TG
TALL STRIKE GUNDAM GLITTER

[トールストライクガンダムグリッター]

製作・文／ヤサカ・マオ

激闘に次ぐ激闘だった、第8回ガンプラバトル世界大会。しかし今回は、その裏で行われていたという幻の戦いに焦点を当て、その主役の一体であるガンプラの再現作例を紹介。ビルダーは満を持して登場、京都出身のガンプラ心形流門下生、ヤサカ・マオ氏。なぜ彼がこの機体を寸分違わず作り出せたかは、解説記事を参照されたし!

1/144 SCALE PLASTIC KIT "HIGH GRADE-SCRATCH"
MODELED BY MAO YASAKA


Front
[前面]


Rear
[背面]

トールストライクガンダムグリッターの前、背、側面、ベース機からかなりの改修が施されているのが容易に伝わる。特に両肩に接続された新規パーツ、これはヤサカ氏が目撃したという幻のバトルの際には装着されていなかった装備だが、第8回世界大会の全てを知る読者諸氏にはもはや説明不要だろう。

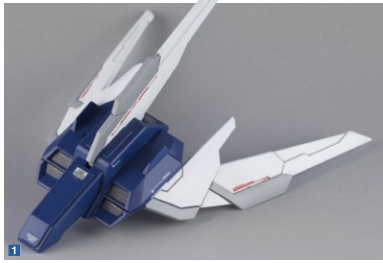

Side
[側面]


ヘッドユニットも新造、Vアンテナにバイザーを被せたような個性的な意匠だ。
Head
[頭部]

堂々と輝いて

GAT-X105/TG
TAIL STRIKE GUNDAM
GLITTER

ヤサカ氏が本文で言及していた本機と同じストライクガンダムベースのライバル機とは、前回の世界大会で優勝を果たしたスタービルドストライクガンダムをおいて他ならないだろう。同ベース機でありながらここまで印象を変えるガンプラのカスタマイズとは、まさに奥深く、そして無限の可能性を秘めている。そういった意味を全て含んだ名言こそが、本機のオリジナルを製作したビルドファイター、サツキ・トオル氏の親友が発した「ガンプラは自由」という言葉なのだ。



1 2「陣き」の名を持つ遠隔操作武器グリッターレヴ。本機のみならず多くの機体に適合するが、全ての機能を使いこなすには並の腕前では難しい。支援機としての使用だけでなく、2機の間にパワーゲートやバリアを発生させるなど、使い手の技量とセンスが試される。3 4連射機能に優れたショートピストル。銃口下部からビーム刃を発振させることも可能であり、短銃である故の取り回しの良さがここでも光る。5通常のビームサーベルは背面のトールストライカーに配置。抜き放つとビームの刃が発生する、お馴染みの格闘戦武器だ。

トールストライクガンダムグリッター

製作・文／ヤサカ・マオ

毎度おおきにですー。今回ホビーホビーさんからお声がかかりまして、このわい……やなくてこういう場やからもう少し改まってこの僕、ヤサカ・マオが再現作例を行ったガンプラを紹介させてもらいますね～。

さてさて、このトールストライクガンダムグリッターという……ほんま近頃は名前がえらい長いのが多くて、きっちり書くのも大変ですね～。それでも省略せんと書きたくなるくらい、このガンプラはものすご～くええ感じの機体なんです。

ストライクガンダムをベースに、どこの誰が見てもわかりやすいパワーアップを……あ、ちょっと待ってください、僕が京都の人間やからといって、なんかすごい皮肉めいた言葉に聞こえてはる人もいるんちゃいます？　誤解せんとってくださいね、このガンプラの評価はもちろん、京都の人たちのこともですよ？

僕の魔王シリーズもそうですけど、素晴らしいガンプラはいつでも小難しい説明の必要がいらんもんなんです。だからというてベース機の機能強化に絞ったオリジナル改造が口で言うほど簡単やないのは、この雑誌をいつも愛読してはるビルダーの皆さんは当然ご承知ですよね。

そして僕レベルのガンプラビルダーやったら、再現作例も外見だけやなくて、バトル性能までしっかり再現せんとあきません。でもそれを可能にするためには、再現元の本気のガンプラバトルを見ないことには……ふっふっふ。そこも抜かりはないんですわ～。

実は第8回世界大会の準決勝第1試合の裏、会場のとある場所で突然始まったこの子のバトルの場に、僕は偶然居合わせていたんです。ま、居合わせたと言うよりは、その部屋の空いてた扉からどっかの家政婦さんみたいにのぞき見してただけなんですけども～。

あえて対戦者の名前は挙げませんけど、そのバトルは時間にしてみたらとても短いものでした。でも、このガンプラが長い時間をかけて練りに練り込まれた珠玉の逸品であることを理解するには十分すぎる時間やったんです。

ストライクガンダムベースのガンプラ言うたら、僕は真っ先に思い浮かべる終生のライバルがいてるんですけど……このストライクも、素晴らしい心の形に仕上がっていました。それはもう、とても眩しかったですよ～。

やさかまお……近況／世間ではガンプラ心形流の次期後継者候補と僕のことを評価している人もいはるみたいですけど、ほんま恐れ多いです。僕なんてまだまだ道の途中、この先もっとすごいガンプラを生み出す門下生が現れるかもしれませんし～！　自力でいられませんし～！

1 2 3 ガンダムM91の前、側、背面。ジュリアン氏のパーソナルカラーとも言える白と赤系のコンビネーションが配されてはいるが、かつて氏が使用していたF91イマジンの面影が見当たらない程の大幅な改修が施されている。4 腰にマウントしたMランス。そこに刻まれた華美なエングレーブが、単なる新装備には留まらない、ただならぬ雰囲気を放つ。

[ガンダムM91]

製作／ジュリアン・マッケンジー　文／ジョン・エアーズ・マッケンジー

第8回ガンプラバトル世界大会を振り返る巻頭特集。やはりこの機体は確実に紹介しなくてはならない。ジュリアン・マッケンジー氏のファイナルウエポン、ガンダムM91。今回は彼のお爺様(グランパ)でもあり、偉大な対戦者でもあった古豪、ジョン・エアーズ・マッケンジー氏が解説する。

“M”の系譜

M91
GUNDAM M91

1/144 SCALE PLASTIC KIT "HIGH GRADE-SCRATCH"
MODELED BY JULIAN MACKENZIE

“M”の系譜
M91 GUNDAM M91

Mランスを構え攻撃姿勢を取ったM91。ランスと言えば機動戦士ガンダムF91の劇中敵側であるクロスボーンバンガードの機体が装備していた武装、ショットランサーのイメージが強いが、その統編にあたるクロスボーン・ガンダムでもライバル機のクロスボーン・ガンダムX2が同様の武装を装備していた。

本機のヘッドユニットは、小型規格らしからぬ巨大なVアンテナが印象的だ。左右のアンテナ基部に追加のサブカメラが配され、総合的なセンサー機能が強化。ベース機の特徴であるフェイスオープン機構（放熱システム）ももちろん組み込まれており、過大なパワーの副産物である高熱は、時に攻撃の手段としても利用される。

全門開放、いわゆるフルバースト時の火力は小型MSとは思えない光束の嵐を生み出す。ジュリアン・マッケンジー氏は自身の新たな道をこの機体で切り拓いたと共に、ガンプラバトル界の更なる進化への期待を我々に与えてくれたことは間違いない。

Mスピアは直線的な攻撃のためにそのパターンを読まれやすいが、MEPEによる分身を併用することで、このウイークポイントをカバー。相手は無数のM91に囲まれ、全方位から逃げ場のない猛撃を受けるのである。また、防御兵装も抜かりはなく、エングレーブが施されたスモールシールド部分はビームシールドの発生機能をも有している。

1

2

3

4

1 マッケンジー一族に伝わる騎士の鉄細工（フィギュア）の槍をパーツの一部に転用して完成したというMランス。先端部に電撃を発生することで相手の粒子フィールドを弱体化。さらに先端部には回転機構が組み込まれ、スピン効果による高い貫通力を誇る。2 ガンダムF91に採用されていたものと同型のビームライフル。ジュリアン氏にとっては、F91イマジン時代から馴染む相性の良い装備なのだろう。3 左腕に装着したブースターガントレット。Mランスを素早く突き出すための推進機構を内蔵している。前面には3門のバルカン砲が組み込まれ、実体弾等の迎撃に使用される。4 高威力の可変速ビームライフルであるヴェスパーは計4門装備されており、ベース機と同タイプのものを腰部に2門、また、背部にスラスターとしても機能するタイプを2門装備する。

ガンダムM91

製作／ジュリアン・マッケンジー　文／ジョンエナーズ・マッケンジー

皆様ご機嫌よう。今回はホビーホビー誌さんからの依頼で、私の愛孫であるジュリアンの機体を解説する機会を頂きまして、非常に喜ばしく思います。なるべく中立の立場を保つように心がけはしますが、身贔屓が過ぎてしまった場合……そこは了承頂きたい。

彼が愛用していたガンダムF91イマジンのコンセプトを強化する形で製作されたM91は、メインウエポンのヴェスパーが2門から4門へ、無論ベース機の特徴である質量を持った残像による分身現象、MEPEの機能も継続して搭載されております。

実を言いますとジュリアンは、この強力な新型を製作したと同時に、ある迷いを抱いておりました。終盤戦に控える強豪と相対するには、まだ足りないものがあると。その隙間を埋めた重要なピースが、Mランスと名付けられた新装備なのです。

M91、Mランス。これらのMは、我々マッケンジー家の頭文字から取られたもの。そこに込められている意味とは、ガンプラビルダーとして多くの葛藤を乗り越えてきたジュリアン自身が導き出した決意の表れであり、完成したM91と共にどのような戦いを示したかは、大会を観戦して頂いた読者諸氏が一番よく存じ上げられていることでしょう。

ジュリアンにとってM91というガンプラは、ガンプラバトルにおける愛機以上の特別な存在であったと、私には断言できます。過去に今を込めて、一族の血を力とした未来への出発点。全てを受け入れた愛孫、ジュリアン・マッケンジーの成長を、これからも私と共に、暖かく見守ってやってください。

じゃんえあいずまっけんじー……近況／私のお爺様がくれた鉄細工（フィギュア）、それは槍を構えた騎兵。その姿は高貴であり勇ましく、こんな素晴らしい鉄細工を貰える私は、きっと特別な存在なのだと感じました。今では私がお爺様・孫にあげるのは第弟級細工……何故なら、彼もまた特別な存在だからです。